

# 子供と自分

平安女學院 大塚 喜一

子供と共に**おはなし**を楽しんでゐる時、ガタンミ戸が開いて人が入つて来た。この時、子供よりも自分の亂れる事が恐ろしい。ハッ！とした途端、一寸した怒り、不安・焦慮

等のこのんがらつた氣持が自分の心を亂し曇らせる。そして今迄の状態にまで復歸するのに幾何かの時が費され、場合によつてはそれが甚だ困難となる。その爲に子供が亂れるのだ。「子供と語る」以上、自分と子供達の心の交流が常然第一義とせらるべきである。然らば、子供が亂れるのは、外的な妨害よりも話者自身の心の動搖が主な原因である事に氣づくであらう。

故に、此際最も大切なのは話者自身の心の平靜であり、ゆるぎなき態度である。ペスタロッパーが「生活の平靜即ち内心の秩序の源泉」云つた眞理は此處にも當てはあ

事が出来る。子供たちと自分が一つになつてゐる「おはなしの世界」以外の何者をも容るゝ餘地無きまでの眞實なる心の態度が大切である。

眞劍勝負で敵と對してゐる時、人が入つて来た事に氣づく餘蘊があるか。

子供を信じて話せ。子供の世界の法則を忠實に守つて話さへすれば、子供達は必ずきいてくれるものだこの確信を以て話せ！話の途中で人が入つて来た事や子供達が亂れた事等を悔ゆるよりも、今迄よく聽いてくれてゐた子供達に對して、僅かな妨害の爲に自分が亂されたといふ眞實性の不足を詫びたい心が起る。

恐るゝ勿れ、たと信ぜよ！（昭和八、六、二〇）